

BEST AVAILABLE COPY

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-014469

(43)Date of publication of application : 22.01.1993

(51)Int.Cl.

H04M 1/27

H04M 11/00

H04N 1/32

(21)Application number : 03-029036

(71)Applicant : FUJI XEROX CO LTD

(22)Date of filing : 31.01.1991

(72)Inventor : NAGOSHI SHINICHIRO

SAKAI NOBUKIYO

KARIBE MUTSUHIRO

KOMACHI YOSHIAKI

IIHARA KAZUHIRO

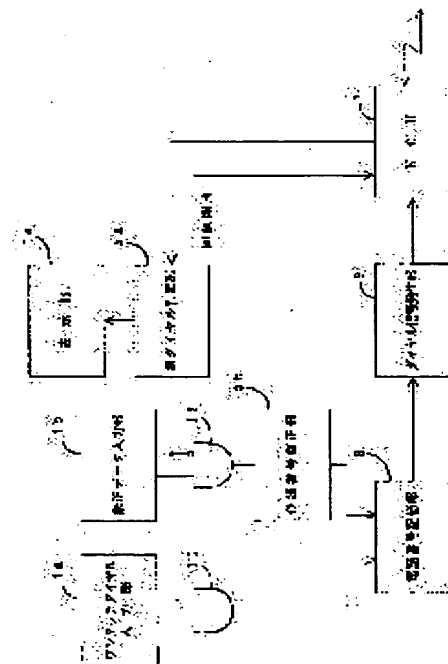
SAKAYAMA TAKASHI

(54) MIS-DIAL NUMBER CORRECTION DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To prevent mis-dialing again by devising it that a dial number registered in a memory is corrected or deleted in the case of a mis-dialing.

CONSTITUTION: A telephone number of full digits is registered in a telephone number storage section 8 corresponding to a one easy step dial number or an abbreviation dial in advance. When the one easy step dial number is used for calling, a mis-dial discrimination section 5a discriminates whether or not any mis-dialing is in existence depending on a signal returned from a line. When the section 5a discriminates mis-dialing, request of re-registration of the telephone number is displayed on a display section 1c. When the operator enters a correction data from a correction data entry section 1b, the correction data is registered again in the telephone number storage section 8 by the operation of a registration number correction section 5b.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 15.10.1996

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 28.07.1998

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of

rejection]

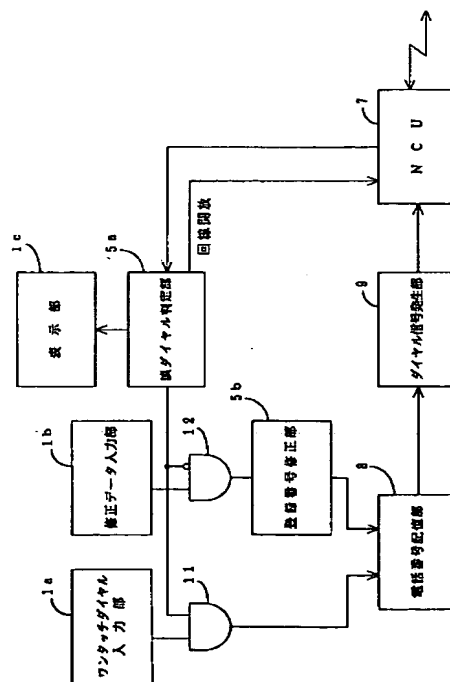
[Date of requesting appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(11)特許出願公開番号

(43)公開日 平成5年(1993)1月22日



【特許請求の範囲】

【請求項1】 装置内部の電話番号記憶部に登録された電話番号により自動的にダイヤル信号を発信し、相手機を呼出す機能をもつ装置の誤ダイヤル番号修正装置において、

前記相手機から返ってきた信号により、誤ダイヤルを判定する誤ダイヤル判定部と、
該誤ダイヤル判定部により誤ダイヤルと判定された時に、前記電話番号記憶部に登録された電話番号の再登録および削除のいずれかの操作の一方を要請する手段とを具備したことを特徴とする誤ダイヤル番号修正装置。

【請求項2】 装置内部の電話番号記憶部に登録された電話番号により自動的にダイヤル信号を発信し、相手機を呼出す機能をもつ装置の誤ダイヤル番号修正装置において、

前記相手機から返ってきた信号により、誤ダイヤルを判定する誤ダイヤル判定部と、
該誤ダイヤル判定部により誤ダイヤルと判定された時に、前記電話番号記憶部の誤ダイヤル登録欄に誤ダイヤルであることを示すデータを登録する手段と、前記誤ダイヤル登録欄に誤ダイヤルであることを示すデータが登録された電話番号が発呼された時に、前記電話番号記憶部に登録された電話番号の再登録および削除のいずれかの操作の一方を要請する手段とを具備したことを特徴とする誤ダイヤル番号修正装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は誤ダイヤル番号修正装置に関し、特に、装置のメモリに登録されたダイヤル番号に誤りがあるとき、これを修正するようにした誤ダイヤル番号修正装置に関する。

【0002】

【従来技術】 従来、ファクシミリ装置や電話機等においては、通信回数の多い相手の電話番号を予めメモリに登録しておく、発呼時に、短縮ダイヤル番号あるいはワンタッチダイヤル番号を押すだけで、前記電話番号を自動的に読み出してダイヤリングする機能を備えたものが多用されている。

【0003】 このような装置において、一度間違った番号をメモリに登録してしまうと、発信人は間違ったダイヤル番号が登録されていることを自分で見付けることは難しく、何回も間違った番号を使用してしまうことになる。このため、受信人は多大の迷惑をこうむることになる。一方、受信人側からすれば、相手がファクシミリ装置であると、発信人が誰であるかわからず、発信人に注意をすることができないので、何回も被害を受けることになる。特に、発信人が夜間の時刻指定でファクシミリ通信を行った場合には、受信人が受ける迷惑は大きい。

【0004】 この問題に関連して、特開昭63-313

965号公報では、短縮ダイヤル番号に対応させて、接続異常、通信異常の発生した回数を積算して記録し、この回数が所定値以上になった時に、警報を発するようにすることが提案されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、前記先行技術においては、複数回の接続異常が発生した時に初めて警報が発せられることになり、受信者は複数回の迷惑をこうむるという問題があった。

【0006】 また、自動発呼機能を備えたファクシミリ装置を使用する場合、オペレータは送信操作をした後、ファクシミリ装置から離れてしまうことが多く、前記先行技術では、オペレータは誤ダイヤルをしたことに気付かずに再びその番号を使用して発呼してしまうという虞れがあった。

【0007】 本発明の目的は、前記した従来技術の問題点を除去し、一回の誤ダイヤルがあった時に、メモリに登録されているダイヤル番号を修正または削除できるようにした誤ダイヤル番号修正装置を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】 前記目的を達成するために、本発明は、装置内部の電話番号記憶部に登録された電話番号により自動的にダイヤル信号を発信し、相手機を呼出す手段と、前記相手機から返ってきた信号により、誤ダイヤルを判定する誤ダイヤル判定部と、該誤ダイヤル判定部により誤ダイヤルと判定された時に、前記電話番号記憶部に登録された電話番号の再登録および削除のいずれかの操作の一方を要請する手段とを具備した点に特徴がある。

【0009】

【作用】 前記電話番号記憶部には予め、ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルに対応させて全桁の電話番号が登録されている。前記ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルにより発呼が行われると、回線を介して返ってくる信号により前記誤ダイヤル判定部は誤ダイヤルか否かの判定をする。誤ダイヤルでないと判定した時には、通常の通信を続行する。一方、誤ダイヤルと判定した時には、前記電話番号記憶部に登録された電話番号の再登録および削除のいずれかの操作の一方を要請する表示をし、オペレータに前記操作をするように要請する。

【0010】 したがって、一度誤ダイヤルと判定された電話番号は再登録されることとなり、相手に再度迷惑をかけることはなくなる。

【0011】

【実施例】 以下に、図面を参照して、本発明を詳細に説明する。

【0012】 図6は本発明が適用されるファクシミリ装置のハード構成の概略図を示す。図において、1はコンソールパネル上に配置されているテンキーや各種の機能

キー等からなる操作部、2は送信する原稿情報を読取る読取部、3は受信した原稿情報をプリントアウトする記録部、4は送信または受信した原稿情報に対し符号化あるいは復号化等の処理を行う画像処理部、5はファクシミリ通信の全体の制御をする制御部、6は変・復調部、7は網制御部（NCU）である。また、8は短縮ダイヤル番号と全桁のダイヤル番号とを対応付けて記憶する電話番号記憶部、9は選択されたワンタッチダイヤル又は短縮ダイヤルに対する全桁のダイヤル信号を発生するダイヤル信号発生部である。

【0013】図1は本発明の一実施例の機能ブロック図を示す。図において、1aは発呼時に操作されるワンタッチダイヤル入力部、1bは修正データ入力部、1cは表示部であり、これらは前記操作部1上に設けられている。また、5aは誤ダイヤル判定部、5bは登録番号修正部、11、12は条件選択部であり、これらは制御部5が有している機能である。なお、他の符号は図5と同一または同等物を示す。

【0014】次に、本実施例の動作を、図2のフローチャートを参照して説明する。

【0015】最初は、誤ダイヤル判定部5aは誤ダイヤルと判断していないので、条件選択部11が有効になっており、前記操作部1上のワンタッチダイヤル入力部1aから所望の番号が入力されると（ステップS1）、該番号は条件選択部11を通して電話番号記憶部8に送られる。電話番号記憶部8からは、前記ワンタッチダイヤル番号に対応する全桁の電話番号が読み出され、ダイヤル信号発生部9にて自動的にダイヤリングされる。ダイヤル信号は網制御部7を経て回線に送出される（ステップS2、S3）。

【0016】その後、回線から信号が返ってくると、誤ダイヤル判定部5aは誤ダイヤルであったか否かを判断する（ステップS4）。例えば、ファクシミリ通信のプロトコルにおける被呼局識別信号（CED）あるいは話し中であることを示すビジー信号が返ってくると、相手機はファクシミリ装置であったと判断し、誤ダイヤルでなかったと判断する。一方、相手機が何の応答もしないとき、あるいは音声が返ってきたときには、誤ダイヤルと判断する。

【0017】ステップS4が否定の時には、ステップS11に進み、ファクシミリ送信の動作をする。なお、相手機が話し中の時には、再ダイヤルの動作をする。ステップS4が肯定の時には、ステップS5に進んで、網制御部7にて回線を開放する動作がなされる。

【0018】続いて、表示部10に、ダイヤル番号を再登録することを要請するメッセージが表示される（ステップS6）。例えば、「バンゴウヲカクニンシテ、モウ1ドセットシテクダサイ。>03-3123-4567」と表示される。

【0019】次いで、操作部1上の修正データ入力部1

bから、ストップキーが押されたか否かの判断がなされる（ステップS7）。この判断が否定の時には、ステップS8に進み、テンキーにより相手機の電話番号が再設定されたか否かの判断がなされる（ステップS8）。テンキーにより相手機の電話番号が再設定され（ステップS8が肯定）、セットキーが押されると（ステップS9が肯定）、ステップS10に進んで、ワンタッチダイヤルの再登録が行われる。一方、前記ステップS7が肯定の時には、ステップS12に進んで、ワンタッチダイヤルの登録削除が実行される。

【0020】以上のように、本実施例によれば、ワンタッチダイヤルで発呼した時に、誤ダイヤルと判定されると、表示部1cにダイヤル番号再登録のメッセージが表示され、強制的に電話番号の再登録を要請する動作、あるいは電話番号を登録削除する動作をすることが要請されるので、1回誤ダイヤルされた時には、2度と同じ間違いをしないという効果を期待することができる。

【0021】次に、本発明の第2実施例を、図3、図4を参照して説明する。図3は第2実施例の機能ブロック図、図4は図3の電話番号記憶部8に記憶されているデータの一具体例を示す。

【0022】この実施例は、前記第1実施例においては、誤ダイヤルをすると必ず電話番号の再登録か削除をする操作をしなければならず、操作が若干煩わしかったのに対して、誤ダイヤルをしたときにはその旨を電話番号記憶部8に登録するだけで操作を終了できるようにしたものである。なお、該電話番号で再発呼する時には、電話番号を再登録しないと使用できないようにし、誤ダイヤルの再発を防止している。

【0023】電話番号記憶部8には、図示されているように、ワンタッチダイヤル番号と、電話番号登録存否欄と、誤ダイヤル登録欄と、全桁の電話番号が記憶されている。電話番号登録存否欄の“1”はワンタッチダイヤル番号に対して電話番号が登録されていることを示し、“0”は電話番号が登録されていないことを示す。また、誤ダイヤル登録欄の“1”は誤ダイヤルがあったことを示し、“0”は正常なダイヤルであったことを示している。

【0024】図3のミス（MISS）判定部5cは前記電話番号記憶部8の誤ダイヤル登録欄を参照し、入力されたワンタッチダイヤル番号に対して登録されている電話番号が誤ダイヤル番号であるか否かの判定をする。なお、図3の他の符号は、図1と同一または同等物を示す。

【0025】次に、図5を参照して、本実施例の動作を説明する。

【0026】ワンタッチダイヤル入力部1aからワンタッチダイヤルが押下されると（ステップS1）、前記ミス判定部5cは電話番号記憶部8の誤ダイヤル登録欄を参照し、前記押下されたワンタッチダイヤルに対応する

10

20

30

40

50

電話番号が誤ダイヤルか否かの判定をする(ステップS2)。すなわち、MISS=1か否かの判断をする。この判断が否定であれば、回線の閉結が行われ(ステップS3)、ダイヤル信号発生部9は条件選択部13を通じて入力してきた電話番号を自動的に発呼する。発呼されたダイヤル信号は網制御部7を経て回線に送出される。

【0027】次に、誤ダイヤル判定部5aは、回線から返ってくる信号により、前記電話番号が誤ダイヤルであったか否かの判断をする。誤ダイヤル判定部5aの動作は第1実施例と同様であるので、説明を省略する。

【0028】誤ダイヤルではないと判定された時(ステップS5が否定)には、ファクシミリ送信を行う(ステップS8)。一方、誤ダイヤルであると判定された時には、網制御部7は回線を開放し(ステップS6)、前記電話番号記憶部8の誤ダイヤル登録欄に“1”を登録する(ステップS7)。

【0029】前記ステップS2が肯定の時には、ステップS9に進んで、表示部1cにダイヤル番号の再登録を要請するメッセージが表示される。第1実施例と同様に、例えば「バンゴウヲカクニンシテ、モウ1ドセツシテクダサイ。>03-3123-4567」と表示される。なお、この時、前記条件選択部13は“閉”になり、条件選択部14は“開”になる。この結果、修正データ入力部1bから入力されたデータは、登録番号修正部5bに入り、電話番号記憶部8のデータの修正が可能になる。

【0030】ステップS10以下は、ステップS13を除いて、第1実施例と同様である。ステップS13では、ダイヤル番号の再登録が終わると、MISS=0にする動作、つまり、図4の誤ダイヤル登録欄に“0”を登録する動作が行われる。

【0031】以上のように、第2実施例によれば、誤ダイヤルをした時に、電話番号記憶部8に、その旨の登録をするだけで操作を終了することができる。このため、誰でも簡単にファクシミリ装置を使用することができ

る。また、再発呼する時には、電話番号を再登録しないと発呼できないので、第1実施例が有する効果と同様の、効果を期待することができる。

【0032】なお、前記の実施例はワンタッチダイヤルの場合を例にして説明したが、本発明はこれに限定されず、短縮ダイヤルにも適用できることは明らかなである。

【0033】

【発明の効果】以上の説明から明らかなように、本発明によれば、発呼した電話番号が誤ダイヤルと判定されると、表示部にダイヤル番号再登録のメッセージが表示され、強制的に電話番号の再登録を要請する動作、あるいは電話番号を登録削除する動作をすることが要請されるので、1回誤ダイヤルされた時には、2度と同じ間違いをしないという効果を期待することができる。

【0034】また、請求項2の発明によれば、前記効果に加えて、操作が簡単であるという効果を期待することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例の機能ブロック図である。

【図2】第1実施例の動作を説明するためのフローチャートである。

【図3】本発明の第2実施例の機能ブロック図である。

【図4】図3の電話番号記憶部に記憶されたデータの一例を示す図である。

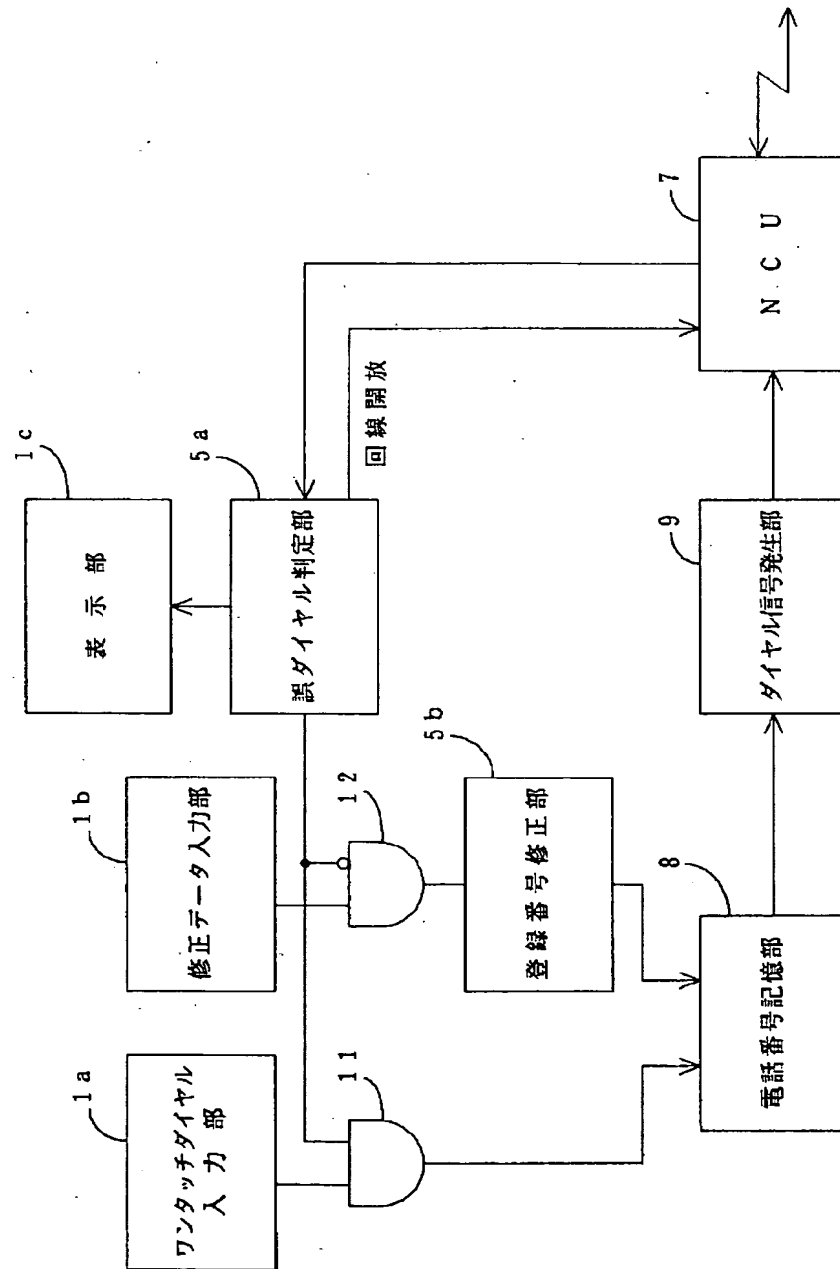
【図5】第1実施例の動作を説明するためのフローチャートである。

【図6】本発明が適用される装置の一例のハード構成を示すブロック図である。

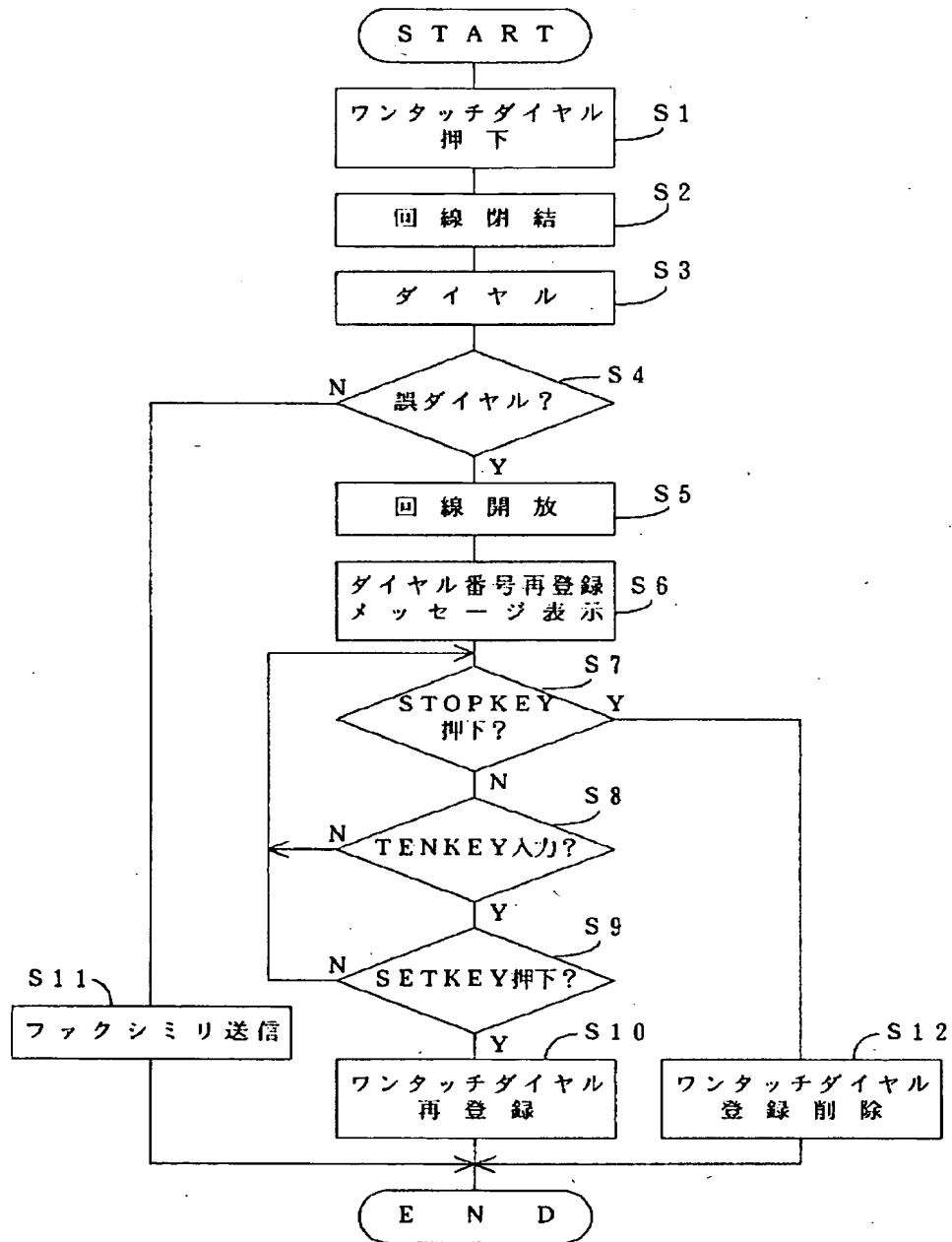
【符号の説明】

1…操作部、1a…ワンタッチダイヤル入力部、1b…修正データ入力部、1c…表示部、5…制御部、5a…誤ダイヤル判定部、5b…登録番号修正部、5c…MISS判定部、7…網制御部、8…電話番号記憶部、9…ダイヤル信号発生部。

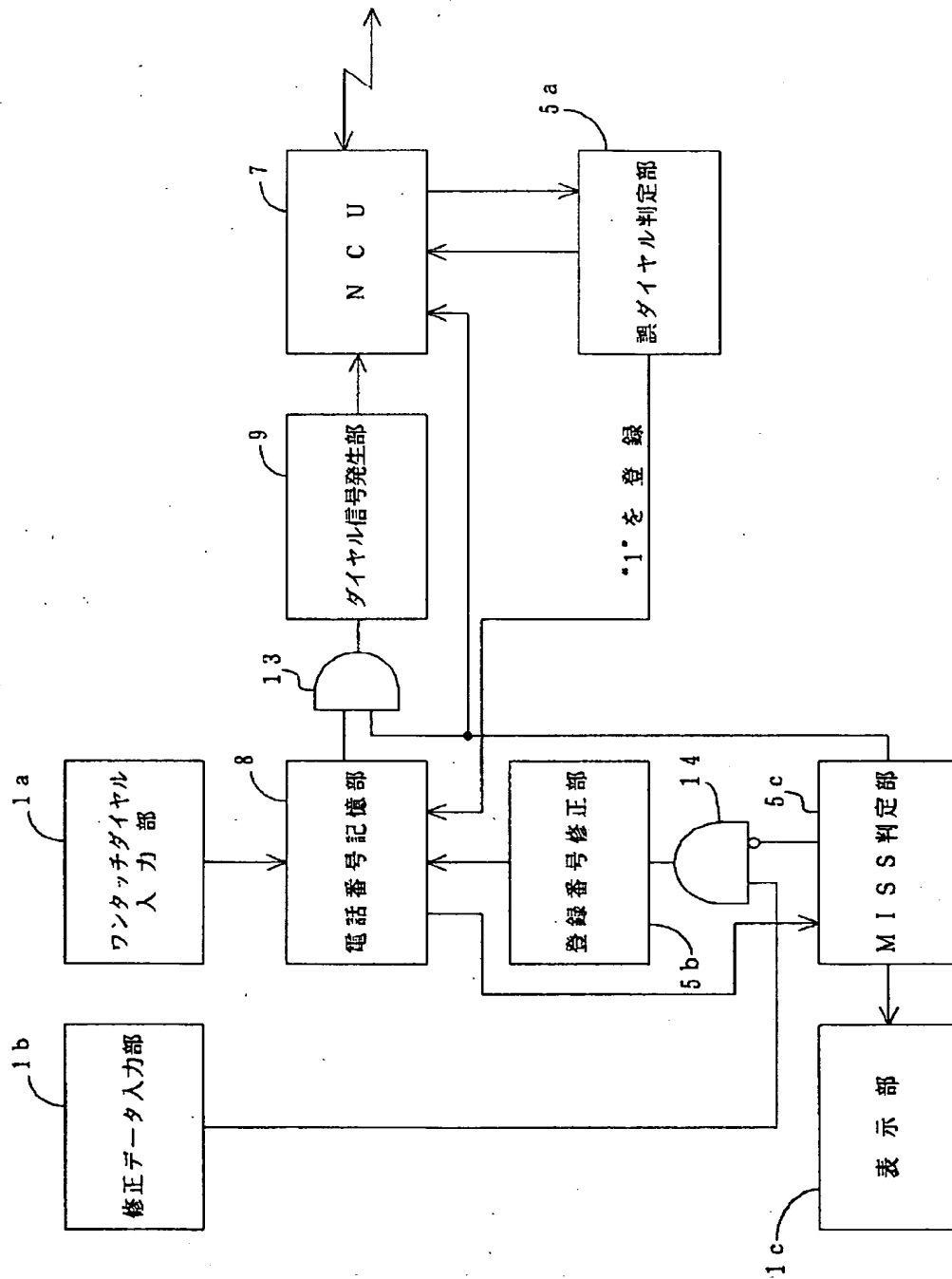
【図1】



【図2】



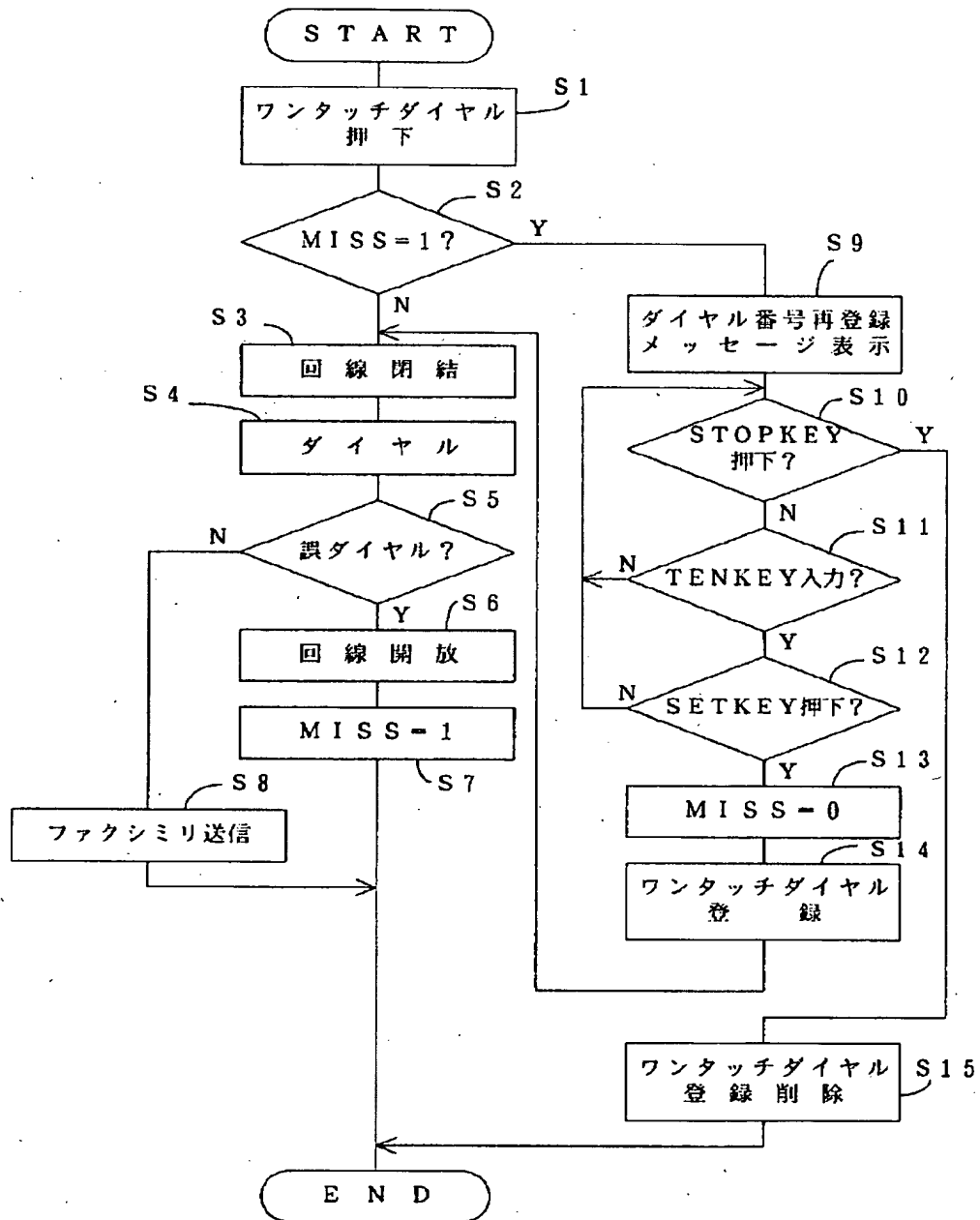
【図3】



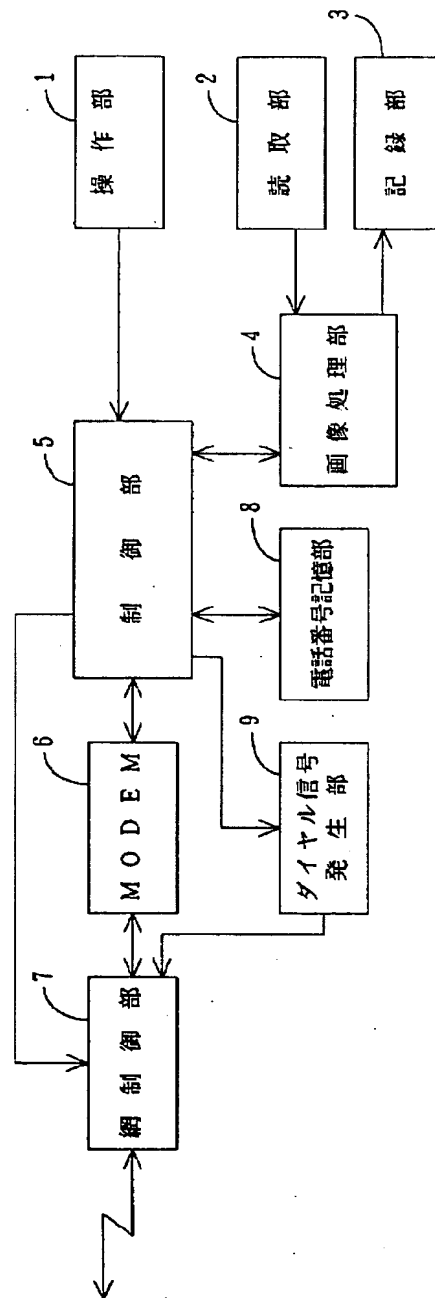
【図4】

ワンタッチ ダイヤル番号	電話番号 登録存否	誤ダイヤル 登録(MISS)	電 話 番 号
1	1	1	03-3123-4567
2	1	0	048-789-0123
3	1	0	045-678-9012
4	0	0	
5	0	0	
6	0	0	
7	0	0	
8	0	0	
9	0	0	
10	0	0	

【図5】



【図6】



フロントページの続き

(72)発明者 小町 義明
 埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼ
 ロックス株式会社岩槻事業所内

(72)発明者 飯原 一弘
 埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼ
 ロックス株式会社岩槻事業所内

(72)発明者 坂山 隆志
埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼ
ロックス株式会社岩槻事業所内

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.